

水平補剛材が垂直補剛材と溶接接合された SBHS500 を用いた鋼 I 桁の曲げ耐荷力に関する  
実験的研究

早稲田大学大学院  
国土技術政策総合研究所  
早稲田大学

学生会員 ○宮澤 駿  
非会員 佐藤悠樹  
正会員 小野 潔

国土技術政策総合研究所  
早稲田大学

非会員 白戸真大  
非会員 重田大祐

1. はじめに

2017 年に改定された道路橋示方書によって部分係数設計

### 3. 実験結果および考察

供試体中央下側に設けた変位計の計測値と荷重から、無次元化した荷重—変位関係を描いたものを図-3 に示す。また、構造寸法が同じで水平補剛材と垂直補剛材を接合していない供試体と比較した荷重—変位関係を描いたものを図-4 に示す。なお、荷重は降伏荷重で、変位は降伏時の変位で除すことで無次元化を行った。最大荷重  $P_{max}$  を降伏荷重  $P_y$  で除した  $P_{max}/P_y$  をグラフ上に◇で示す。  $P_{max}/P_y$  が 1.0 を超えたことから、最大荷重が降伏荷重を超えたことがわかる。また、溶接接合をした供試体が接合しない供試体と比べて  $P_{max}/P_y$  が少し大きくなっているものの、荷重